鳥取大学産学・地域連携推進たより

2012.冬

巻頭言

「A Sense of Wonder」

産学・地域連携機構 副機構長
斎本　博之

キチンナノファイバーを用いた透明材料に関連して、日本の伝統産業の一つである和紙の工芸品の中に、超微細繊維を用いた複合透明材料という「ハイテク」製品があることを知った。古来の自由な発想と技がなせる「造科の妙」、「造化の妙」、やはり「造花の妙」であろうか。

多すぎる情報があふれる今、ともに学ぶべき情報を紡ぐことは、連携の一歩かと考える。

未来への仕込み

鳥大の地域連携は単に県内各地を結ぶことだけではなかった。斎本副機構長はこれに『温故知新』を加えて、空間と時間を紡いだ。生物の恵みを生かした斎本先生の成果が倉吉の土蔵に詰まっていた。（絵・文：中村宗和名誉教授）

行動憲章

私たちは、地域社会から期待される存在となります。
私たちは、「利益相反」を克服した産官学連携を推進します。
私たちは、知的付加価値を高めるための自己研鑽に努めます。
私たちは、連携の実を上げるべく、学外者に対し敬意を持って接します。
私たちは、専門領域の異なる人材の幅広い協調を計ります。
私たちは、産官学各界が互いに情報を共有するよう努めます。

①研究推進に関する事業報告

1. 科学研究費補助金等外部資金説明会【10 月 6 日(木)、7 日(金):鳥取大学】

今年度から科学研究費補助金以外の補助金情報を盛り込み、外部資金説明会を開催した。説明会では外部資金獲得への取組の説明、久留米大学 児島 将康 教授から「科研費獲得の方法とコツ」と題した講演、さらには若手研究者向けの「申請書類作成ワークショップ」を鳥取地区（10 月 6 日)、米子地区（10 月 7 日）において実施した。ここで説明会には総勢 156 名の参加者があり、またワークショップには 38 名の研究者が実践的に研究申請書の書き方などを学んだ。

2. はりま産学交流会 10 月創造例会 【10 月 21 日(金):姫路商工会議所(姫路市)】

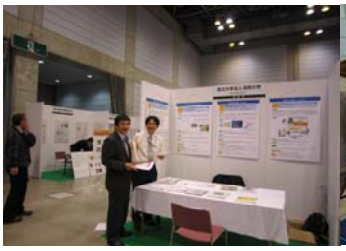
本学からは工学研究科情報エレクトロニクス専攻の 李 仕剛 教授が「全天周視覚センサとその処理法」と題して、ただ 1 台のカメラで身の回りのシーンをもれなく観測できるセンサを紹介しました。プレゼン後の面談会において、海洋牧場の魚の動きをとらえ、育成に役立つ情報を取り出すことに利用できるのではないか、配管内の問題を見つけ出すのに使用できるのではないかなどの具体的話し合いがなされました。例会の参加者は 81 名で約半数が企業からの参加でした。

3. 神戸高専 産学官技術フォーラム ’11【11 月 9 日(水):神戸市立地域人材支援センター(神戸市)】

神戸市立高等専門学校等が主催する「産学官技術フォーラム」が開催され、本学からは工学研究科の小野勇一准教授が「銅薄膜を利用した応力測定法」を発表した。フォーラムでは講演の部として基調講演「エネルギーとものづくりに対する一考察」(前川篤 三菱重工業株式会社 常務執行役員 相模原製作所長)、特別講演として「ガレキ処理とエネルギー利用について」(蓬莱秀人　日工株式会社 事業開発本部 研究開発センター長）が行われた。また発表としてはオーラルセッション（8 セクション)、オーガナイズセッション（4 セッション)、およびポスターセッションが行われた。フォーラムには 300 名以上の高専関係の参加者があり、白熱した議論がなされた。

4. 中海ものづくりフェア 2011 【11 月 18 日(金)、19 日(土):くにびきメッセ(松江市)】

中海圏域の製造業を中心とした企業が有する優れた技術・製品・商品等を広く紹介し、国内企業はもとより韓国、ロシアの海外企業とのビジネスチャンスへ繋がることを目的に開催されました。当フェアは、中海圏域の４市、各商工会議所が中心となって持ち回りで開催しています。本年で6回目になり、鳥取県、島根県の企業、大学、研究機関等109機関が出展しました。　本学は、このイベントの支援機関としてブースを出展し、医学部の 谷口 晋一 教授、加藤 敏明 准教授、岡本 幹三 講師、谷口 美也子 助教の研究シーズ4件のパネルを展示しました。展示シーズは、「総合診療能力向上のためのweb-based E-Learningシステムの開発」、「総消費カロリー計 “Calory Eye 3D” の開発」、「超高齢化の進行する地域における働き盛り世代への健康づくり～認知行動科学の応用に関するソフト開発」、「アルツハイマー型認知症早期発見のための診断システムの開発」でした。本学ブース来訪者は40名、そのうち8名と名刺交換を行いました。また、ものづくり体験コーナーでは、ものづくり協力会議が「段ボール織り機で機を織ろう」、米子ものづくり運営会議が「光の万華鏡をつくろう」を出展し、子ども達にものづくり指導を行いました。



5.鳥取大学セミナーin MOBIO-Cafe【12 月 2 日(金)：クリエイション・コア東大阪（東大阪市)】

本学は、東大阪市での初めての試みとして、ものづくりビジネスセンター大阪（MOBIO）との共催で、3 名の研究シーズ発表と交流会を行いました。大学院工学研究科の 伊藤 敏幸 教授が「スーパー液体（イオン液体）による化学反応」、伊福 伸介 准教授が「エビ、カニ殻より抽出される新規の機能性材料キチンナノファイバー」、農学部の 會見 忠則 教授が「毒きのこの子実体生産と化合物ライブラリーの商品化」を発表しました。参加者は、総勢で 30 名（企業 11 名、鳥取県 6 名、大阪府 6 名、鳥取大学 7 名）でした。参加者のうち 13 名からアンケートの回答があり、セミナーはとても有意義（9 名)、有意義（4 名）との評価を受けました。また、その回答から参加企業人の関心分野は、主に化学・農水・バイオ分野でした。交流会では発表者と企業参加者の間で熱心な意見交換がなされました。

6.中国地域太陽電池フォーラム　産学官ビジネスマッチング交流会　【12 月 13 日(火):広島国際会議場(広島市)】

中国経済産業局では、太陽電池分野における産学官の連携組織「中国地域太陽電池フォーラム」を立ち上げ太陽電池メーカーと地場企業とのネットワークを構築し、当地域での太陽電池関連産業創出を目指している。本学から２件（工学研究科 伊藤 敏幸 教授、市野 邦男 准教授）のポスター・パネル発表をした。参加者約100名で次世代の太陽電池材料に関心がもたれた。

②地域貢献・生涯学習に関する事業報告

1. 大山・日野川・中海学協会セミナー　【10 月 8 日(土)～11 月 26 日(土):鳥取大学広報センター】

鳥取大学の研究者と西部在住の専門家の方が共同で講師を担当するセミナーで、本年で４回目になります。当セミナーは、鳥取県西部圏域の自然の豊かさ、景観の美しさ、歴史的資源などの資産を守り育てる人材の育成を目的とし、過去「大山」、「中海」について開催してきましたが、今年度のテーマは「日野川」でした。10 月、11 月に 4 回、毎回 50～60 名のご参加をいただき、このうち 4 回全て参加した 15 名の方には協会会長（本学能勢学長）から修了書が授与されました。平成 24 年 1 月 15 日（日）には第 5 回目の「大山・日野川・中海学検定試験」を実施する予定です。

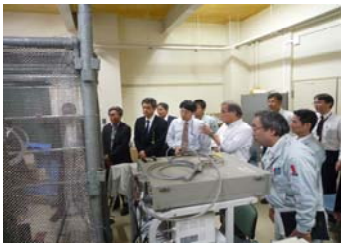
2. 中部ものづくり道場指導者養成講座実地演習　【10 月 16 日(日):伯耆しあわせの郷(倉吉市)】

市民対象の創作系教室、スポーツ系教室、文化系教室の成果を発表する年 1 回の祭典が開催されました。その中で、中部ものづくり道場指導者養成講座の受講生が、「絵はがきづくり」、「ミニフラワーアレンジメント」、「すべり台工作（木工)」について実際に子どもたちに教える実地演習を行いました。受講生は来場した約 60 名の子どもたちに熱心にものづくりを教え、子どもたちはできた作品を嬉しそうに持ち帰りました。

3. 鳥取商工会議所工業部会による鳥大訪問　【10 月 12 日(水):鳥取大学広報センター】

昨年に引き続き、今年 2 回目となる鳥大訪問に 22 名が参加しました。大学院工学研究科 原 豊准 教授と陳 中

春 教授の研究室を訪問し、部会員から多くの質問がありました。その後、陳教授が「高性能材料の加工技術」と題した講演を行い、企業の抱える問題解決と具体事例を交えて、本学の所有する特許技術やシーズを紹介しました。



参加企業からの技術相談案件は2件あり、今後、企業の新商品開発や問題解決について連携を行うこととなりました。

4. 第2回とっとり防災・危機管理研究会 【10月20日(木):鳥取大学産学･地域連携推進機構】

鳥大の研究者と県や市町村の防災担当者で構成する今年度第 2 回目の研究会が開催されました。東日本大震災の調査報告や島根原子力発電所の視察等の活動報告のあと、県との共同研究として実施している県内モデル3小学校（明徳、高城、大山西）での防災教育、琴浦町との共同研究として実施している「琴浦町津波対策」の進捗状況が報告されました。また、鳥取県のＢＣＰ（事業継続計画）の取組み、原発の避難計画、大学における防災教育等について協議しました。

5. 第33回全国国立大学生涯学習系センター研究協議会【10月20日(木)、21日(金):鳥取大学広報センター】

本協議会は生涯学習系センターを持つ国立大学の教職員が現状を報告し，課題を議論する場として毎年開催されているものです。本年は北海道教育大学の主催で開催され、約90名の関係者が出席しました。

文部科学省生涯学習政策局生涯学習政策課からは国の取り組みについて説明があり，また自治体を代表して北海道教育庁後志教育局長から「全国国立生涯学習系センターへの期待」が語られました。その他，実践報告や「開かれた大学に，生涯学習系センターは貢献してきたか」と題する熟議（熱心な議論）が行われました。

6. 明治大学130周年記念講演会 【10月22日(土):とりぎん文化会館(鳥取市)】

鳥取大学・鳥取県と連携協定を締結している明治大学の法学部教授 村上 一博 氏により、「因幡・パリ・東京を駆け抜けた法学者　岸本辰雄の夢」と題した講演会が開催されました。

約 100 名の参加者は、明治大学創立者のひとりである鳥取藩出身の岸本辰雄の生い立ちや、留学先のパリから帰国し明治法律学校を設立した経緯、大審院判事や弁護士としての活躍等についての講演を受け、熱心に聞き入っていました。

7. 健康フォーラム2011 【10月22日(土):とりぎん文化会館(鳥取市)】

約300人が参加し、生活習慣病予防のための生活改善をテーマとした「健康フォーラム2011」（県医師会、県健康対策協議会、日本海新聞社主催）が開催され、能勢 隆之 学長と医学部の 加藤 敏明 准教授が講演を行いました。

能勢学長は、病気を抱えながらも人生を楽しめるような考え方をすることの重要性を強調しました。また、加藤准教授は生活習慣病を予防するためには継続的な運動習慣が効果的であることを訴え、1日1万歩を目安とするウオーキングを推奨しました。

8. 日南町議会による鳥取大学視察・研修会【10月24日(月):鳥取大学事務局】

日南町との連携を深め、地域経済のより一層の活性化を目指して、昨年度に続いて2回目となる日南町議会議員による視察研修が開催されました。

能勢学長、村上議長のあいさつに続いて 日置 佳之 教授ほかによる事例紹介と意見交換が行われ、今後の取り組みについての質疑や再生可能エネルギーの研究などの要望が出されました。終了後、生協食堂に会場を移して懇親会も開催し、農政や産業等様々なテーマについて話し合われました。

9. 鳥取大学振興協力会県外視察【10 月 26 日(水)～27 日(木): 京都府】

今年度は京都府内の企業及び京都大学を視察しました。全体で 35 名が参加し、初日は、タツタ電線（株）京都工場（福知山市）、オムロン（株）（綾部市）を訪問しました。2 日目は、京都大学（京都市桂キャンパス）のベンチャープラザ及びＢクラスターを訪問した後、島津製作所創業記念資料館の見学を行いました。ベンチャープラザでは、施設概要のお話の後、（株）アスプ、アクアフェアリー（株）から最新の技術について講演をいただきました。Ｂクラスターでは、小森工学研究科長のご案内で研究室や施設見学を行った後、京都大学産官学連携本部金多准教授から産官学連携事業について説明をいただきました。今回の県外視察では、最新の産業事情を学ぶことができ、参加者一同大変喜んでいました。

10. 鳥取大学における米子市職員の勉強会 【11 月1日(火):鳥取大学医学部】

地元産業界や自治体との共同研究や地域振興、各種の連携事業の可能性について、米子市職員を対象に勉強会を開催しました。この中で鳥取大学からは、大学と西部地域の連携実績や各種研究会の活動状況、医学部関連の取り組み、また、認知症予防に関する話題提供を行いました。米子市からは第２次米子市総合計画の中の「米子いきいきプラン 2011」が紹介され、「まちづくりの目標」や「まちづくりの基本方向」などが示されました。意見交換では、医療ツーリズム、中心市街地の活性化、鳥取大学地域貢献支援事業の活用等について、活発な意見が交わされました。

11. ガリレオ・ナイト 2011 in とっとり 【 11 月 5 日(土):鳥取大学広報センター】

JST（（独）科学技術振興機構）平成 23 年度「科学コミュニケーション連携推進事業」に採択された「鳥取地域における地球宇宙科学を用いた生涯学習支援ネットワーク」事業の一環として、手作り望遠鏡キットを用いた工作教室が開催されました。約 40 名の参加者は望遠鏡の仕組みのレクチャーの後，望遠鏡の工作に取り組みました。あいにく雨天であったため観察会を開催することはできませんでしたが，完成した望遠鏡を屋外の景色などに向けて性能を確かめていました。

12. 防災フェスタ in 琴浦【11 月 6 日(日):琴浦町東伯総合公園】

住民の防災意識向上をめざした防災フェスタが琴浦町で開催されました。今年度は東日本大震災での津波災害を受けたことをもあって、海岸線沿いの住民約 660 名が早朝から参加し、雨の降る中、あらかじめ指定された場所への避難訓練が行われました。

とっとり防災・危機管理研究会では、地震波（縦波、横波）の伝わり方、筋交いのあるなしで家屋の揺れかたがどう違うのか、海底が沈みこんだり、隆起したとき

にどのように津波（引き波、押し波）が発生するのかなどを模型で実演しました。約 130 名の子供たちが防災クイズにチャレンジしました。

13. 第５回鳥取県中部地域活性化方策懇談会【11 月 7 日(月):倉吉シティホテル(倉吉市)】

中部地域の活性化と今後一層の産官学連携強化を図るための懇談会が開催されました。

今回で５回目となるこの会には、倉吉市長、倉吉商工会議所会頭、ＪＡ鳥取中央組合長、県産業振興機構理事長、県中部総合事務所長、鳥取大学理事等 23 名が出席し、各団体間の連携、雇用対策、農商工連携など多面的な施策の推進について活発な意見交換が行われました。

14. 第１回鳥取県農医連携促進事業関係者会議【11 月 8 日(火):米子コンベンションセンター(米子市)】

農業生産者と医療関係者による農医連携の取組みを県（商工労働部、福祉保健部、農林水産部）、大学等が協力して支援することにより、新たな健康関連産業の発展を目指すための初会合が、関係者約３０名が集まり開催されました。事例発表として、抗アレルギー効果がある「エキナセア」について、大山農業改良普及所の田平主幹が紹介し、また本学における農医連携について、黒沢 洋一 教授（医学部）から報告がありました。

15. 鳥取市経済観光部と鳥取大学との連絡会【11 月 11 日(金):放送大学鳥取学習センター(鳥取市)】

今回で２回目となる鳥取市経済観光部と鳥取大学との連絡会を開催しました。鳥取市から杉本経済観光部長、岡部経済観光次長、大田経済戦略課長外、鳥取大学からは林理事、菅原機構長、土井地域貢献・生涯学習部門長外が出席し、鳥取市と鳥取大学による産官学の連携の推進、雇用対策や観光面での協力などについて意見交換を行い、今後のより一層の連携強化を確認しました。

16. 琴浦町防災関係者研修会【11 月 12 日(土):まなびタウンとうはく(琴浦町)】

琴浦町内の防災関係者及び町議会を対象に講演会が開催されました。

鳥取大学医学部の 栗政 明弘 准教授が「原子力災害からの避難を考える」というテーマで、もし福島原発と同じような事故が島根原発で起こった場合のシュミレーションなどを交えて講演を行いました。約 70 名の参加者は、興味深く熱心に聞き入っていました。

17. 県・市町村・鳥大合同ゼミナール【11 月 17 日(木):鳥取大学広報センター】

県、市町村の交通政策担当者、持続的過疎社会形成研究プロジェク及び本学の学生が一堂に介して、生活交通について方策を探りました。「行政が率先して公共交通利用促進を実践するための方策」、「高校生が公共交通を利用するための方策」の二つのテーマについて、参加者 23 人が 4 つのグループに別れて意見交換を行いました。また豊岡市の職員の公共交通利用促進への取組みについて、谷本 圭志 教授（工学研究科）が事例紹介を行いました。

市町村職員にとっては、意見交換を通じて、政策形成能力が向上し、担当者間の連携が深まることにつながりました。

18. 北栄町、鳥大等による町内企業合同訪問【11 月 17 日(木) 、12 月 2 日(金):北栄町】

北栄町における産学官連携を促進することを目的に、鳥取大学、鳥取県産業振興機構、鳥取県中部総合事務所、北栄町役場が合同で企業訪問を行いました。2 日間にわたり町内企業 10 社を訪問する中で、ＴＰＰ問題は今後どのようになっていくのか、販路拡大の支援をお願いしたい、単品の売り込みではなくユニット受注できるような売り込み方はできないのかなど要望や意見がありました。

今後、関係機関の連携を強化し、支援体制の充実を図ることとしました。

19. 鳥取県と鳥取大学との連絡協議会【11 月 18 日(金):鳥取大学広報センター】

鳥取県から藤井副知事外県幹部職員、鳥取大学から能勢学長、理事、副学長外が出席し、平成 23 年度の連絡協議会が開催されました。

この協議会は、県と鳥大との連携強化を図るため年 1 回程度開催しているものです。今回は、人材育成、中山間地域の振興、地域医療の充実、産学官連携等地域貢献、危機管理対策の 5 つのテーマについて、積極的な意見交換が行われました。新年度に向けてさらに連携を深めることを申し合わせました。

20. 第 1 回鳥取大学谷本ゼミ in 南部町～政策形成研修と実践～ 【11 月 18 日(金)～12 月 9 日(金):南部町】

谷本 圭志 教授（工）、羅（な） 貞一 助教（工）による、南部町職員を対象にした研修を 11 月 18 日（金）、25 日（金）、12 月 9 日（金）の 3 回、南部町役場法勝寺庁舎にて行いました。テーマは観光振興（主に古事記編纂 1300 年を契機とした地域づくり）とし、グループワーク形式で、毎回約 20 名の職員が参加して行いました。

今回は、3 回の研修を通じて、職員の政策成形能力の向上を目的として、南部町の強みや弱みなどについて SWOT 分析を用いながら、最終的には、「赤猪岩神社」、「食・グルメ」、「スポーツ・体験プログラム」、「祭典・イベント」の個別テーマに係る事業を実施するにあたってのプランを提案していきました。

21. 明治大学菊地ゼミ日南町、鳥取大学訪問 【11 月 20 日(日)～22 日(火) 】

過疎地域でのまちづくりを視察研修するため、明治大学経営学部 菊地ゼミ生 27 名が 3 日間の行程で鳥取県を訪問しました。平成 22 年 9 月に続いて 2 回目の訪問です。

日南町では地域活性化の事例を視察し、22 日には工学研究科 谷本 圭志 教授のゼミ生と合同セッションとして、過疎地域の公共交通やまちづくりをテーマに研究内容を報告し合い意見交換を行いました。また、鳥取県庁を訪問し、中山間振興課 米山課長から過疎地域での取り組みについて説明を受けたあと県議会議場の見学を行いました。

22. 第３回とっとり産業フェスティバル実行委員会【11 月 22 日(火):放送大学鳥取学習センター(鳥取市)】

今年度の事業報告を行うとともに、課題を整理し来年度につなげるために、関係機関から約 20 名が集まり開催しました。駐車場までの案内設置を工夫することや、中学生や高校生を含む来場者を増やすための方策などについて意見が交わされました。

また来年度の会場や時期について話し合い、平成 24 年度は西部地区で開催することが決定しました。

23. 大山・日野川・中海学協会第 2 回幹事会【11 月 24 日(木):鳥取大学医学部】

能勢学長（本学学長）や幹事が集まり、来年度の取組みや、協会の運営のあり方について今年度２回目の幹事会を開催し、意見交換を行いました。年１回開催する検定に関して、合格者の分析をして次のステップにつながるようなことを考えた方が良い、合格のインセンティブが必要ではないかなどの意見がでました。また、協会の中期的な事業計画を定めて運営した方が良いという意見もありました。今後も、幹事会を重ねながら課題事項を引き続き、検討していくことになりました。

24. 鳥取銀行行員リエゾン研修会【11 月 24 日(木)、29 日(火)、12 月 1 日(木):鳥取大学研修センター、鳥取銀行倉吉中央支店(倉吉市)、鳥取大学医学部】

鳥取大学、地元企業等を絡めた産官金学の連携の足がかりとするため、東部・中部・西部 3 箇所にて約 100 名の参加者に対し研修会を開催しました。大学、地元企業の代表者により講演をいただき、具体的な大学のシーズをもとにした共同研究事例の紹介を受けました。金融機関担当者は企業の課題解決のためのビジネスマッチングを行うことによる双方のメリットや、大学と企業との橋渡し役となることを確認しました。

25. 「はやぶさ」講演会 【11 月 25 日(金):鳥取大学工学部】

ＪＡＸＡ宇宙科学研究所「はやぶさ」プロジェクトマネージャーである川口淳一郎教授をお招きし、「はやぶさ」が挑んだ人類初の往復の宇宙飛行その７年間の歩みと題した講演会（工学研究科及び工学部同窓会主催）を開催しました。

約 300 名の参加者は、「はやぶさ」宇宙往復飛行でのエピソードや時にユーモアを交えての講演を熱心に聞き入っていました。

26. 鳥大・日南町 WG 会議 【11 月 29 日(火):鳥取大学広報センター】

今年度 2 回目となるワーキンググループ会議を、医学部とＴＶ会議システムで中継し開催しました。はじめに連携事業の進捗状況について、これまでの成果や今後の予定の報告を行いました。また、来年度以降の取り組みに向けた提案があり、自然エネルギーの活用や学生の里山体験などについて意見交換を行いました。　次回は 3 月 3 日に日南町での連携事業報告会と併せて開催する予定です。

27. 第８回鳥取大学と鳥取県の共同シンポジウム【12 月 3 日(土):とりぎん文化会館(鳥取市)】

「おいしい水の郷、鳥取の水資源を考える」をテーマに、祝部 大輔 講師（医学部）が「水と健康・環境」と題し、鳥取県内の「名水」の成分を、おいしい水指標、健康な水指標で評価したことや、水と地域環境について講演を行いました。また「大山・水の研究会」について、鳥取県西部総合事務所の佐伯商工労働課長から紹介がりました。後半には、鳥取環境大学建築・環境デザイン科の十倉科長がコーディネーターとなり、祝部講師、立花部長（コカ・コーラウエスト株式会社統括部）、高見次長（鳥取県水道局）、法橋部長（鳥取県生活環境部）が参加して、活発な討論を行いました。

28. 第７回中部・西部地区企業による鳥取大学訪問 【12 月 6 日(火):鳥取大学産学･地域連携推進機構】

今回初めて中部地区と西部地区企業合同での鳥取大学訪問が行われました。鳥取大学訪問は中部・西部とも

に７回目で、企業や行政、鳥大などから 32 名が参加しました。

工学部ものづくり教育実践センター見学の後、「ＭＥＭＳ技術応用によるスマート赤外線センサとその応用」と題して、ものづくり教育実践センターの 村上 健介 特任教員、「毒きのこの子実体生産と化合物ライブラリーの商品化」と題して農学部附属菌類きのこ遺伝資源センターの 會見 忠則 センター長（教授）のシーズ紹介及び意見交換が行われました。

29. 米子商工会議所議員クラブ幹事会との意見交換会 【12 月 8 日(木):鳥取大学医学部 】

地元産業界との共同研究や地域連携事業について、米子商工会議所議員クラブ幹事会と意見交換を行いました。医学部附属病院の最新医療現場を視察する院内ツアーでは、がんセンターやロボット支援手術による手術室等を見学しました。意見交換では、大学からは医学部の取り組みや認知症予防センターの構想について紹介しました。それに対し、幹事会のメンバーからは、認知症予防と温泉を組み合わせた観光ツーリズムや身近にある最新の医療資源を外部に発信し、地域活性化につながる事業に取組む必要がある等の意見がでました。

30. ハーブの利用に関する研究会 【12 月 9 日(金):鳥取大学医学部 】

認知症の予防・治療に効果がある芳香治療（アロマセラピー）に用いられるエッセンシャルオイルを地元で生産する目的で取り組む「ハーブの利用に関する研究会」の報告会が開催されました。現在、ハーブの他、日南町の森林の大半を構成しているヒノキ、スギからエッセンシャルオイルを抽出する実験を実施中です。報告会では、本年９月に大型の蒸留装置を導入し、ヒノキの葉・木部、ユズの皮からオイルを抽出する実験やオイルの成分分析結果が報告されました。今後は、オイルを使用したヒトでの安全性試験に着手し、その後認知症に関する予防・治療の臨床実験を実施する予定です。

31. 鳥取大学と鳥取ビブラコースティック及び NOK との技術交流会 【12 月 9 日(金):南部町】

初めての取組みである技術交流会をとっとりビブラコースティック株式会社（南部町）にて開催しました。本学からは、小幡 文雄 教授、小出 隆史 准教授、上原 一剛 助教（以上、工学研究科）、和田コーディネーター、亀尾（社会貢献課）が参加し、最初に工場見学を行った後、鳥取ビブラコースティック株式会社の親会社である NOK 株式会社鳥取事業場から、「防振・防音関連開設技術の紹介」及び「駆動系防振アイテムの紹介」について発表があり、本学からは、小出准教授から「ハイブリッド構造の採用による歯車騒音の低減」について、小原助教からは「BT シャンクツールホルダの耐びびり性向上に関する研究」外について、発表を行いました。今後も、双方のニーズに合った内容を発表し合い、交流会を継続していくようになりました。

32. 第２回鳥取大学地域学研究会 【12 月 10 日(土):鳥取大学全学共通教育棟】

地域学への評価と期待について、中村浩二氏（金沢大学教授・学長補佐）と栗原彬氏（立教大学名誉教授）を招いて講演いただきながら、本学地域学部の研究と活動を通して見えてきたことや地域学の方向性を考えるために、シンポジウムを開催しました。

中村氏には「地域の課題に向き合い研究と人材養成－＜能登里山マイスター＞養成プログラムから」について、栗原氏には「地域におけるボランタリーな生き方－地域学への期待－」についてお話しいただきました。その後、家中 茂 准教授をコーディネーターとし、中村氏、栗原氏、仲野 誠 准教授、兒島 明 准教授、永松 大

准教授、柳原 邦光 教授も参加し意見交換を行いました。参加者は約 90 名でした。

33. 第３回中部地区ものづくり指導者養成講座 【12 月 10 日(土):伯耆しあわせの郷、11 日(日)倉吉交流プラザ(倉吉市)】

中部ものづくり道場では、今回で第３回目となる指導者養成講座を開催しました。ものづくりの基礎・指導法講座のほか、4 つの選択科目（ペーパーブーメランづくり等）が開講され、受講生はその内２講座を選択しました。受講生は 15 名でした。1 月 29 日（日）に開催される中部冬の手づくりまつりの中で、受講生は実地演習を行う予定です。

34. ニッセラ・センサー工学講座記念講演会 【12 月 16 日(金):鳥取大学工学部】

本学と日本セラミック株式会社との間で１０月に設置した寄附講座を記念する式典と講演会を開催しました。式典では、井藤理事、田中工学研究科長、谷口社長の式辞をはじめ、平井知事の来賓祝辞をいただきました。

この講座は、共同してメムス（MEMS:Micro Electro Mechanical Systems）技術を応用したセンサー開発のための拠点を形成するとともに，メムス技術に関する高度な研究と技術者の教育を行い，地域産業の発展向上に寄与することを目的としています。立命館大学の木股雅章教授の「赤外線センサの動向」と題した記念講演に多くの参加者は聞き入っていました。

35. 中部地区産学金官連携推進連絡会事務局会・農商工連携ワーキンググループ会議 【12 月 16 日(金) ： 中部総合事務所(倉吉市)】

中部地区における産学金官を推進し、地域資源・産物の高付加価値化及び新産業展開のための情報交換やビジネスマッチングなど地域の産業活性化を目的に中部地区産学金官連携推進連絡会事務局会と農商工連携ワーキンググループが開催されました。今回で 3 回目となる事務局会では、関係機関との連携や総会など連絡会の活性化について協議を行いました。農商工連携ワーキンググループ会議では、各農商工案件の進捗状況や新規案件について協議を行いました。

③知的財産管理運用に関する事業

1. 第８回 経営戦略講演会 【11 月 11 日(金):メルパルク OKAYAMA(岡山市)】

さんさんコンソが主催する「第８回経営戦略講演会」を開催しました。今回は、NPO 法人バイオマス産業社会ネットワークの 泊 みゆき 理事長を講師としてお迎えし、「FIT 法の成立と地域のバイオマス利用」と題してご講演頂きました。本講演会には、森林系バイオマスの活用に関連する方々を始め、150 名以上の聴講者が参集し、質疑応答でも活発な討論がなされました。

なお、今回の経営戦略講演会は「中四国環境ビジネスネット（B-net）フォーラム 2011」との合同開催であり、当日はその他に、NPO 法人環境エネルギー政策研究所の松原弘直理事・主席研究員から「持続可能な循環型のエネルギー社会への大転換」と題した基調講演、ポスターセッションなどが行われ、さんさんコンソからも事業内容や最近の取り組みについて紹介しました。

2. 鳥取県商工会議所連合会長賞を連続受賞 【11 月 13 日(日):さざんか会館(鳥取市)】

社団法人発明協会鳥取県支部主催の「第 53 回鳥取県発明くふう展(一般の部)」において、本学地域学部 3 年生の 田中 亜由子 さんが「作品名：万能！出汁とり保存容器」を出展しました。審査の結果、同作品は『鳥取県商工会議所連合会会長賞』を受賞しました。当該発明くふう展では、昨年度本学工学部機械工学科 3 年生の学生３名が『鳥取県商工会議所連合会会長賞』を受賞しており、２年連続の同一賞受賞の快挙を達成しました。

3. 中国地域さんさんコンソ 新技術説明会 【11 月 25 日(金):科学技術振興機構(東京都千代田区)】

この新技術説明会は、さんさんコンソ正会員である大学・高専等から企業等に向けて、未公開特許を中心とした技術シーズを発表する、JST が支援するイベントです。今回は、「資源循環活用、省エネ・新エネ、電気、情報、防災」をテーマとして開催し、鳥取大学からは、大学院工学研究科　西村 強 教授と、李 仕剛 教授の２名が発表しました。当日は、関係者・スタッフを除き、企業の方を中心とした 70 名の方に来場いただきました。さんさんコンソからは、事務局長である岡山大学・渡邊裕教授が最近の取り組みなどについて紹介しました。

4. アグリビジネス創出フェア２０１１ 【11 月 29 日(火)～12 月 2 日(金) :幕張メッセ(千葉市)】

農学系技術シーズのビジネスマッチングをサポートするアグリビジネス創出フェア 2011 に「殺菌剤・殺虫剤に依存しない安全な病害虫の防除と廃棄物の再利用および減量化」と題して、農学部の 尾谷 浩 教授と 中島 廣光 教授のシーズ発表を行い、今後の共同開発に向けたマッチングを行いました。また、農学系知的財産の実用化事例として、カニの甲羅から抽出したＮアセチルグルコサミンを含む化粧品「ほほうるる」（(株)シャルビー）の紹介を行いました。会期中、多くの来場者がブースに立寄り、熱心に説明を聞いていました。

5. コンピュータソフトウェア著作権セミナー 【12 月 13 日(火):鳥取大学広報センター】

本セミナーは、中国地域産学官連携コンソーシアム、産学・地域連携推進機構、鳥取県が主催として、「コンピュータソフトウェア（プログラム）開発における注意点　～オープンソースソフトウェア等の取扱いなど～」をテーマとして開催しました。セミナーでは、社団法人コンピュータソフトウェア著作権協会 事業統括部 法務担当マネージャー 中川 文憲 氏に、「著作権の基礎とプログラムの開発」と題してご講演いただきました。当日は、スタッフを除いて、33 名が聴講し、企業・一般からも多くご参加いただきました。質疑応答においては、具体的事例に基づいた質問が多くなされ、非常に関心を集めました。

6. 中国四国地域アグリビジネス創出フェア 2011 【12 月 16 日(金):岡山ｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾝｾﾝﾀｰ(岡山市)】

（特非）中国四国農林水産・食品先進技術研究会および農林水産省主催による「中国四国地域アグリビジネス創出フェア 2011」が開催されました。これは、中国四国地域を中心とした企業・大学等が行ってきた農林水産・食品分野の研究・製品開発、事業化や技術移転、販売ルートの開拓などについての情報発信と交流を行い、ビジネスチャンスの増大などを図り、地域活性化に資することを目的として開催されたものです。中国地域産学官連携コンソーシアムや鳥取大学農学部からも、それぞれブースを出展し、多くの来場者と交流を深めました。入場者数は約 450 名でした。

平成 24 年 1 ～3 月の催し物

◆鳥取大学サイエンス・アカデミー 【日時: 第 2、4 土曜日 10:30～12:00 開催: 鳥取県立図書館】

月 日	テーマ	講 師
1 月 14 日	ジオパーク観光と地域振興について -岩美町での調査を中心に-	地域学部 准教授 馬場 芳
1 月 28 日	山陰沖日本海にくらす海の生きもの紹介 ～付加価値を高める生物の知識～	鳥取県立博物館 主任学芸員 和田 年史
2 月 11 日	中世の湖山池	地域学部 教授 錦織 勤
2 月 25 日	湖山池・たねが池の形成	湖山西公民館長 星見 清晴

東日本大震災を受けて、3 月以降のサイエンス・アカデミーでは「防災・減災・危機管理」をテーマに開催する予定です。現在検討中の新たな津波防災計画、震災復興の進捗状況の最新の話題をお話します。

◆とっとり駅南教室 【日時: 第 1 土曜日 13:30～15:30 開催: 鳥取市立中央図書館】

回	月 日	講 師	学 部 等	講 話
７３	１月 ７日（土）	中原 計 准教授	地域学部	「遺跡から見る過去の環境と人」
７４	２月 ４日（土）	茨木 透 教授	地域学部	「伝統文化の現在（仮題）」
７５	３月 ３日（土）	仲野 誠 准教授	地域学部	「多文化共生社会について考える」

◆スター・ウォッチング 2012 全国星空継続観察 in とっとり

【日時: 1 月 21 日(土) 18:30～21:00 開催: 鳥取市さじアストロパーク】

この星空観察は，星の見え方で空気の透明度や光害(ひかりがい)の状況を把握するという事業で，昭和 63 年から毎年夏と冬に行われています。全国で同じ時期に観察することで，人口規模による観測状況の違いなどの傾向を知ることができます。今回の講習では，産学・地域連携推進機構の 前波 晴彦 講師が観察方法を分かりやすく説明し、実際の星空観察の楽しさを体験していただきます。

発行日:平成 24 年 1 月 1 日＜第 27 号＞ 連絡先:鳥取大学産学･地域連携推進機構
所在地:〒680-8550 鳥取市湖山町南 4-101 ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ:http://www.cjrd.tottori-u.ac.jp/
TEL:0857-31-5609 Fax:0857-31-5571 E-mail:ken-somu@adm.tottori-u.ac.jp